DJ-P240　拡張版 取扱説明書

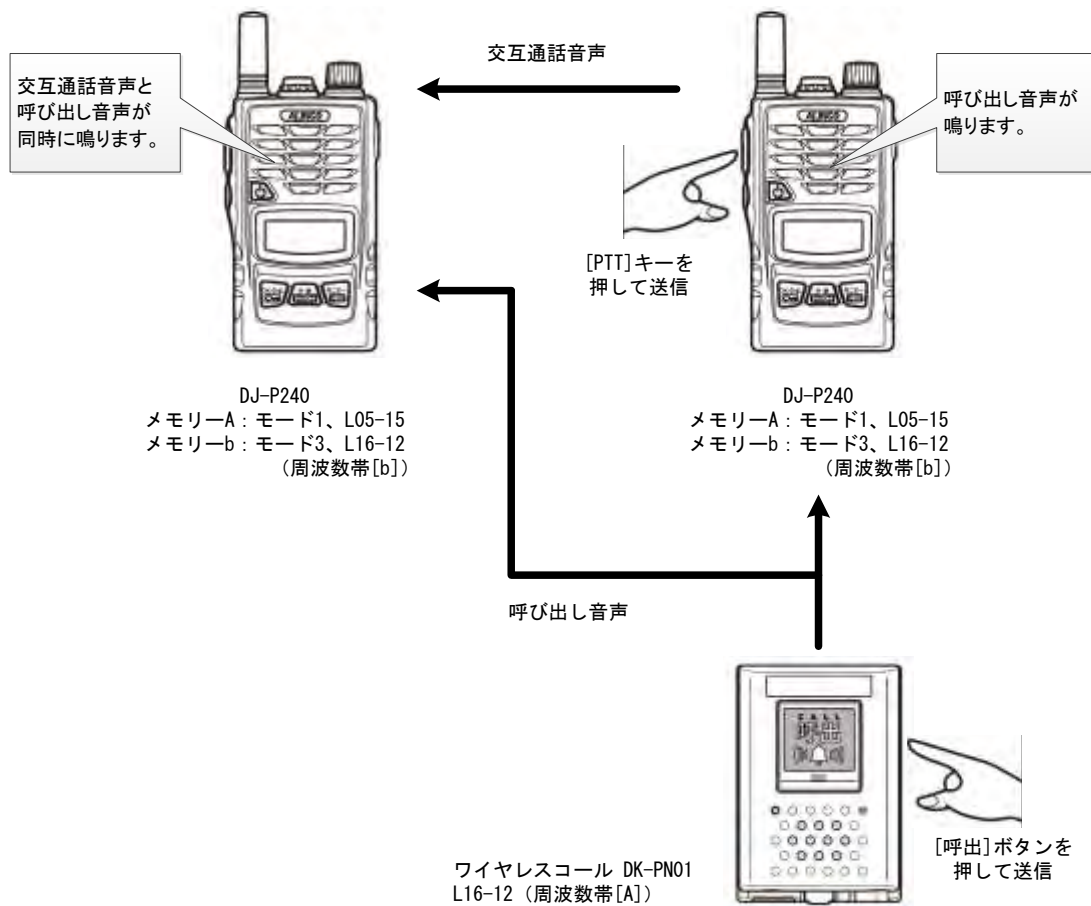
DJ-P240 特定小電力トランシーバーは多彩な機能を搭載しています。
本書では製品に付属の取扱説明書には敢えて記載していない「２波同時受信モード」「セットモード」「拡張セットモード」「エアクローンモード」の詳細について説明します。

１）　２波同時受信モード

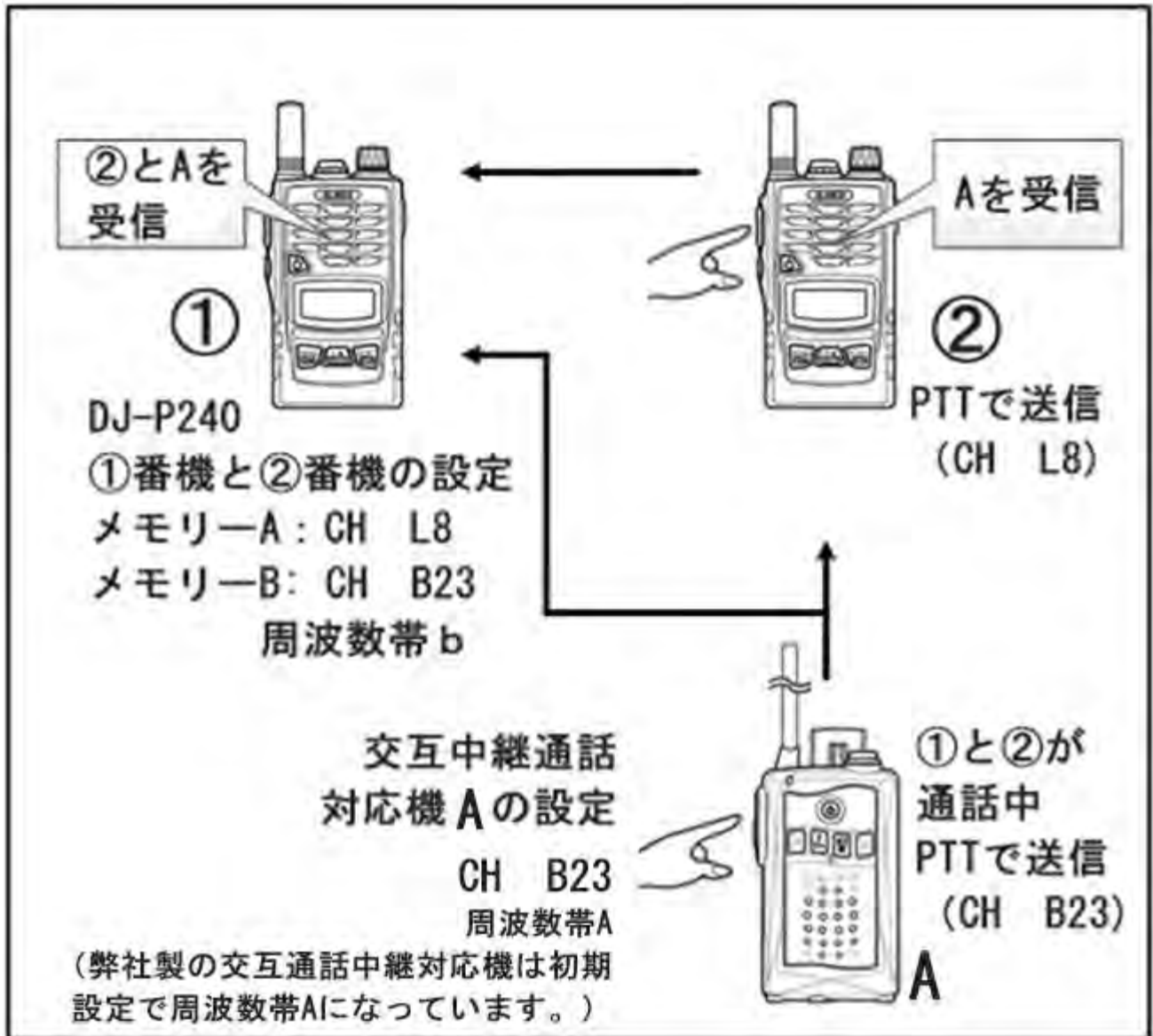
モード 17：　2 波受信モード

2 つのチャンネルを同時に受信できるので、サブ側からメイン側の通話に割り込むことができます。あらかじめメモリーチャンネル A、b への登録が必要です。この時、b は必ず中継通話チャンネルに設定する必要が有ります。DK-PN01　ワイヤレスコールと組み合わせて呼び出しシステムにするとトランシーバー同士が通話中でもワイヤレスコールからのアナウンスを受信できます。中継器対応のトランシーバーなら、DJ-P240 でなくても子機として DJ-P240 に割り込めます。

【設定例】

ワイヤレスコール

設定例：通信　（イラストは次のページ）

・通話グループと監督さんがいます。通話グループは全員が互いに通話します。監督の A さんは普段グループの通話を聞く必要はありませんが、時々グループのメンバー（例では①さんと②さん）に連絡する必要が有ります。このときグループ全員が P240、監督さんは交互通話中継対応のトランシーバーを使うと、送信中の人も含めて全員に監督さんの呼び出しが聞こえます。監督さんに返事したり、監督さんを呼び出したりするには P240 のフックキー（サブ PTT キーとも呼びます）を押して話します。この声は全員に聞

こえます。デュアルオペレーションと異なるのは、常に同じチャンネルを受信していること、監督さんは通話グループのユーザーから呼ばれない限りグループの声が聞こえない（聞かなくて済む）ことです。

【ご注意】

設定が正しくできていないと、受信だけはできても、肝心の「メモリーCH A で通話中でも B チャンネルからの声を受信」をすることができません。

- 使用する DJ-P240 全ての個体に予め、メモリー番号 A と b に、モード 1 とモード 3b の設定を登録しなければ動作せず、「------」と表示されます。
- メモリー番号 A/b に【同じチャンネル】、【隣接するチャンネル（自分のチャンネルを中心に上下３ｃｈ以内）】、【周波数帯[A/b]だけを変更した同じチャンネル】を登録すると正常に動作しません。できるだけ離れたチャンネルを登録することをおすすめします。

【制限事項】

- 「セットモード No.5 バッテリーセーブ」は「on2」「Eco」に設定していても「on1」で動作します。また、バッテリーセーブ設定をしていてもモード 1、モード 3 より電池の消耗は早くなります。
- 接客モード（受信音ミュート）、緊急通報、VOX、など併用できない機能があります。
  また、「セットモード No.9 送信出力」を「Lo」（1mW）に設定して、中継チャンネル b12～b29 に登録しても連続通話はできず、通話時間が合計 3 分になると自動的に送信を停止します。

【設定方法】

① **メモリー番号 A と b を登録する**

P240 は１台だけ設定すれば、残りの個体はエアクローン（無線で設定内容をまるごとコピー）できます。エアクローンの方法は本書の末尾で説明しています。

A に使いたいチャンネルをモード１にして、グループトーク番号、その他使いたいセットモード項目を設定します。

【注意】: コンパンダー、秘話関連、送信出力はセットモードの設定がそのまま２波受信に反映されます。２波同時受信モードでは、メモリーCH の設定は反映されません。

ファンクションキーを押し、M と数字が点滅したらダイヤルを回して A を選択（書き込み済データがあっても新しいものに上書きします)、グループキーを長押しして[WritE]が表示されたら終了です。

② ｂは、ファンクションキーを押してＦのアイコンが点灯中にモードキーを押し、表示が点滅したらダイヤルを回して「通話モード３A」を選びます。ファンクションキーを押してＦアイコン表示中に PTT ボタン下にある小さい方のキー（フックキー）を押して「３ｂ」にします。中継器を使うチャンネル（L10～L18, ｂ12～ｂ29）を選び、その他の機能も設定して①の操作を繰り返し、メモリーｂチャンネルを選んで登録します。

③ 子機やワイヤレスコール DK-PN01 はメモリーｂと同じ中継用チャンネルに設定します。その他の設定もメモリーｂと同様の設定にします。アルインコ製であれば、中継器チャンネルの周波数帯は初期値で A になっているので特に気にする必要はありません。

※ 図のチャンネル設定はあくまで例です。現場で空いているチャンネル、グループ番号を探して、実用前に十分に動作確認をしてください。中継器を使わなくてもｂは必ず中継用チャンネルにします。

④ **P240 をモード 17 に設定する**

[ファンクション]キーを押し F 点灯中に[モード]キーを押します。モード番号が点滅します。

ダイヤルを回してモード 17 に設定します。[PTT]キーを押して設定を完了します。

正しく設定すると「メモリー番号 A」（メイン）と「メモリー番号 b」（サブ）をサブとして 1 秒ごとに表示が切り替わり、２波同時受信モードが始まります。表示は変わりますが、デュアルオペレーションと異なり、常に２つのチャンネルを独立して受信しています。

２波同時受信モードを終了するには、モード番号を１や３など次に使いたいモードに合わせます。

⑤ **送信/受信する**

● **送信する**

メイン側を送信するときは[PTT]キーを､サブ側を送信するときは[フック(A/B)]キーを押します。オプションの外部マイクをご使用の場合は[PTT]キーを普通に押すとメイン側を送信､二度押し(一度短く押して放し、それから普通に押して話す）でサブ側を送信します。オプションの外部マイクを使用していても、トランシーバー本体の [PTT] と [フック(A/B)] キーはメインとサブ用に使えます。割り込み側は単に PTT を押して話します。ワイヤレスコールシステムの時、DK-PN01 端末は呼び出し送信専用のため、業務連絡の音声通話を、呼び出した人に聞かれる心配はありません。またサブチャンネルで端末に返信することは無いので「セットモード No.52 デュアル、2 波受信 PTT 有効/無効」を「Ptt」にしておくことをおすすめします。メイン PTT のみが有効になり、サブ PTT キーを押して不要な電波を送信することが無くなります。

● **受信する**

受信すると 1 秒ごとの切り替え表示が止まり、受信音声が聞こえます。メイン側を受信するとメイン側のチャンネル、サブ側を受信するとサブ側のチャンネル、両方のチャンネルを受信すると両方のチャンネル番号を表示します。

２）製品説明書で説明していない標準セットモード項目について

※　セットモード No.1～No.14 の設定は、同梱の取扱説明書で詳しく説明しています。

【セットモードの操作手順】

［ファンクション］キーを押し、F のマークと M,数字が点灯中にダイヤルを押します。

・ダイヤルを押すごとにセットモードの項目が切り替わります。音声ガイドで項目番号を発声します。

・［フック(A/B)］キー（PTT キーの下にあるキー）を押すと前項目に戻ります。

・ダイヤルを回して設定値を選びます。[PTT］キーを押すと設定を登録して運用モードに戻ります。

※　音声ガイドが聞こえないときはボリューム設定を確認するか、セットモード No.12 サウンドで「Gdc」「ALL」を選択します。初期値ではガイドを発声します。

※押す回数、はセットモードに入って CH-voL 表示からダイヤルを押し下げる回数です。
音声ガイドを使わないときの目安にお使いください。

No.	メニュー	表示	選択項目	初期値	※押す回数
1	CH/VOL リバース（ダイヤルの割り当て）	CH-voL	CH-voL/voL-CH	CH-voL	-
2	コンパンダー	oFF ComPnd	on/oFF	oFF	1
3	秘話	oFF ScrbLE	on/oFF	oFF	2
4	ベル	oFF bEEL	on/oFF	oFF	3
5	バッテリーセーブ	on1 bS	oFF/on1/on2/Eco	on1	4
6	オートパワーオフ　（電源オフタイマー）	oFF APo	oFF/30/60/90/120	oFF	5
7	ランプ　（照明の動作）	5 LAmP	oFF/5/on	5	6
8	PTT ホールド	oFF PttHLd	oFF/on	oFF	7
9	送信出力	Pow-Hi	Hi/Lo	Hi	8
10	VOX	oFF vo	oFF/Lo/Hi	oFF	9
11	操作音量　（ビープ音とガイダンス声量）	3 Sd-voL	0～5	3	10
12	サウンド　（ビープと音声ガイドを使う）	ALL Sound	oFF/bp/Gdc/ALL	ALL	11
13	エンドピー	oFF EndP	on/oFF	oFF	12
14	コールバック　（自声モニター）	oFF CALLb	on/oFF	oFF	13
15	**ディスプレイ表示**	**modE**	**modE/SmEtEr/Cntdn/FrEq**	**modE**	**14**
16	**スケルチレベル**	**SqL 3**	**0～5**	**3**	**15**
17	**キーロック時間**	**Loc 2**	**1～3**	**2**	**16**
18	**メモリー表示**	**numbEr**	**numbEr/mode/no-mode**	**numbEr**	**17**
19	**音色変更**	**1 mELody**	**1～3**	**1**	**18**
20	**中継自動接続手順**	**on2 Auto**	**oFF/on1/on2**	**on2**	**19**
21	**電池電圧参照**	**○○ ○.○○**	**-**	**-**	**20**
22	**PTT オフ**	**on Ptt**	**on/oFF**	**on**	**21**
23	**LCD 消灯**	**on Lcd**	**on/oFF**	**on**	**22**
24	**外部音量変更**	**EvoL-H**	**L/H**	**H**	**23**
25	**イヤホン断線検知**	**on EAr-C**	**on/oFF**	**on**	**24**
26	**受信音ミュート　（接客モード）**	**oFF r-mutE**	**on/Hnd/tch/vo**	**oFF**	**25**

（項目 No.１～１４は本体説明書 P.47～57 をご参照ください。）

No.15　ディスプレイ表示　modE

ディスプレイのモード番号表示部に、モード番号以外の情報を表示させることができます。

modE：通話モード番号を表示（初期値）

SmEtEr：S/RF メーター表示　（受信信号の強さと送信時のパワーを縦棒で表示）

Cntdn：通話残り時間表示、１８０から１秒単位。３分タイムアウトまでの残り時間の目安。

FrEq：チャンネル番号の代わりに周波数を MHz 単位で表示。422.200=422.200MHz

No.16　スケルチレベル　SqL 3

スケルチのレベルを 0～5 の範囲で調整します。FM 特有の、待ち受け時に鳴る「ザー」という雑音を消す機能で、ゼロで開放（ザーが鳴りっぱなし）です。「ザー」が鳴らなくなった数字の１つ上あたりに設定します。大きくし過ぎるとノイズでスケルチが開くことが減る分、弱い信号は聞こえなくなります。電波環境でレベルが変わることがあるので微調整できるようになっています。

No.17　キーロック時間　Loc 2

キーロックするときのキーを押し続ける時間を１、２、３秒から選べます。標準は２秒です。

No.18　メモリー表示　numbEr

メモリーチャンネル運用時の表示方法を変更する機能です。

number：メモリーチャンネル番号表示　（初期値）

mode：モード番号表示

no-mode：メモリーチャンネル番号とモードの同時表示

No.19　音色変更　1 mELody

ベル機能の音色が変えられます。モニターキーを押すと音色が確認できます。

No.20　中継自動接続手順　on2 Auto

モード 3 半複信中継子機の中継動作自動接続手順（Auto Kerchunk）を変更する機能です。接続タイミングの異なる旧製品や他社製中継器へのアクセスに有効な場合があります。通常は初期状態の「on2」でお使いください。

No.21　電池電圧参照　t3 または Li-数字

電池のタイプと電圧を表示します。「t3」は単三形電池、「Li」はリチウムイオンバッテリーパックを示します。外部電源端子（AC アダプター）を使うと「FULL」と表示します。

表示は目安で、個体のばらつきもありますが電池が切れるときの数値を覚えておくと、より精度の高い減電池表示として使えます。

No.22　PTT オフ　on Ptt

本機を受信専用として使うときの設定です。[PTT] キーを押しても送信しません。

※ VOX と緊急通報時は、この設定は無効になります。送信します。

No.23　LCD 消灯　on Lcd

送受信中にディスプレイ表示を消灯する機能です。PTT ホールド機能 ON、リモコンモードで送信した際や最小ボリューム設定で受信した際、表示内容が電源 OFF 状態と区別つかなくなるため設定の際はご注意ください。意図的に運用中ずっと表示を隠す設定は拡張セットモードで後述します。

No.24　外部音量変更　EvoL-H

イヤホンを使うとき、最大音量にするとうるさすぎる、耳を傷める、とお感じであれば L 設定にします。逆に工事現場や工場など、騒音の多いなどうるさい環境では H 側でないと聞こえにくくなります。

No.25　イヤホン断線検知　on EAr-C

起動時に自動的にイヤホンが断線していないか検知をします。お使いのイヤホンがサードパーティ製で相性が悪いような場合、まれに断線検知が誤動作することもあり、OFF が選べるようになっています。通常は ON でお使いください。

No.26　受信音ミュート(接客モード)　oFF r-mutE

イヤホンマイクを装着時に、ワンタッチまたは自分の声で受信音をミュート（音量 1）できます。よくあるミュートは腰や背中の無線機を手探りでボタン操作しますが、接客モードは操作が簡単で、戻し忘れても設定時間が過ぎたら自動で解除してくれる、弊社特許取得済の便利な機能です。

Hnd(ハンド)：イヤホンマイクの PTT キーを一度短く押すとミュートします。同じ方法で解除します。
Tch(タッチ)：イヤホンマイクを軽くたたくとミュートします。同じ方法で解除できます。
vo（ボイス）：マイクに声（音）が入るとミュートします。声が入っている間はミュートを保持し、声がなくなると解除します。(接客中の自分の声でミュート)
※どのモードでも、無線機本体のキー操作、または PTT で送信するとミュートは解除されます。

・タッチとボイスでは、バッテリーセーブ機能が働かないため電池の消耗が早くなります。
・ボイスは環境音が大きいとそれを拾って誤動作します。後述の拡張セットモード項目で感度調整はできますが、それでも誤動作するような場所ではお使いになれません。
・VOX 機能、PTT ホールド機能を設定していると使えません。
・メモリーモード、リモコンモード、デュアルオペレーションモード、2 波受信モードでは使用できません。
・ハンドとタッチでは解除忘れを防ぐため、一定時間が経つと自動的にミュート状態を解除します。
・ハンド設定時は送信開始までに遅延が起こるため、音声の始めが途切れる場合があります。「了解です、～」や「はい、～」など、途切れても支障がないような言葉から話し始めると通話しやすくなります。
・タッチとボイスはイヤホン、末尾に A が付かない弊社製イヤホンマイク（旧製品 / 現行品は全て A 付きです）やスピーカーマイクは使えません。また他社製のイヤホンマイクで「アルインコ対応」とあっても使えないものがほとんどです。同時通話などで使えるようにするため、弊社純正イヤホンマイクは回路が少し異なっています。取扱説明書のオプション一覧表をご覧ください。

３）拡張セットモード

普段の使用には余り必要が無くても環境や特定のニーズによってカスタマイズできると便利な項目を設置するのが拡張セットモードです。それほどひんぱんに変更する必要が無いうえ、意味が分かって設定しないと電池を早く消費したり、表示が変わったり、一部の機能が使用できなくなるなど「故障かな？」と思うような動作をするので、拡張操作をしないと使えないようにしています。内容を良くご理解いただいたうえで操作していただきたいので、操作方法も敢えて最後に記載しました。増えた項目は、通常のセットモード項目の後ろに続けて表示されます。

ユーザーが誤って管理者設定を変更するリスクを減らすため、これら拡張メニューは設定変更後に再び表示を隠すことができ、完全リセットをしないと初期化されないようになっています。

No.	メニュー	初期表示	選択項目	初期値	※押す回数
27	マイクゲイン	4 m-GAin	1～7	4	**26**
28	デュアルオペレーション再開時間	5 duAL-t	1～5(秒)	5	**27**
29	別売アクセサリーの PTT 対応	ALL inSptt	oFF/out/ALL	ALL	**28**
30	緊急警報鳴動時間	10 EmG-t	10～60	10	**29**
31	秘話周波数	34 Scr-Fq	27～34(×0.1KHz)	34	**30**
32	秘話エンファシス	on EmPHA	on/oFF	on	**31**
33	減電池アラーム（アラーム間隔）	oFF bAtt-C	oFF/5～60(秒)	oFF	**32**
34	グループトーク TSQ/DCS	ton GrouP	ton/Cd1/Cd2	ton	**33**
35	VOX ディレイ時間	10 vod-t	1～30（×0.1 秒）	10	**34**
36	チャンネル表示	AL CHdiSP	AL/noL/oFF	AL	**35**
37	グループトーク判別精度	2 mG-ton	1～5	2	**36**
38	AGC 切り替え	SL AGC	oFF/SL/FS	SL	**37**
39	AGC ターゲットレベル調整	06 AGC-tG	03～24（×-1dB、 3dB Step）	6	**38**
40	個別呼出　送受信	oFF SELCAL	on/oFF	oFF	**39**
41	個別呼出用マイグループ番号割当	00 my-GP	00～19	00	**40**
42	個別呼出用マイコード番号割当	00 my-Cd	00～99	00	**41**
43	通話圏内確認	oFF ArEA-C	on/oFF	oFF	**42**
44	テールノイズキャンセル	on tAiLnC	on/oFF	on	**43**
45	周囲温度　注意喚起	oFF tmP	oFF/30c～60c（℃_温度しきい値）	oFF	**44**
46	フックキー割り当て	Hoo Hoobtn	Hoo/vLO	Hoo	**45**
47	レストア	oFF rESto	oFF/SAv/Lod/dEt	oFF	**46**
48	警報の通報方法　選択	EG rPt-Sd	oFF/EG/Sd/Cd	EG	**47**
49	減電池スリープ	on bt-SLP	on/oFF	on	**48**
50	受信音ミュートレベル	4 r-muSn	1～7　（タッチ、ハンド用）	4	**49**
51	受信音ミュートディレイタイム	3 r-mudt	1～5　（ボイス用）	3	**50**
52	デュアル・2 波受信 PTT 選択	ALL duALPt	ALL/Ptt/Hoo	ALL	**51**
53	EJ-57U 対応	oFF EJ-57U	on/oFF	oFF	**52**

No.27　マイクゲイン　4 m-GAin

通話時の癖やアクセサリーマイクのゲインなどの都合で、人によってトランシーバーに入る声量は異なります。このため、音が小さい（話す声が小さい＝レベルを大きくする）、音が歪む（声が大きい＝レベルを小さくする）等の場合に調整できるようになっています。他社製のマイクをご使用になる時もレベル調整が必要になる場合があります。設定を間違うと声が小さくなったり歪んだりしますのでご注意ください。

No.28　デュアルオペレーション再開時間　5 duAL-t

デュアルオペレーションモードで通話が終わり、交互受信が再開するまでの時間を変更できます。通常は通話終了から5秒経過後に再開されますが、このタイミングを短くできます。

No.29　別売アクセサリーのPTT対応　ALL inSptt

4極プラグのオプションイヤホン、スピーカーマイク等を使うときに、本機PTTと本機マイクの有効／無効を選べます。使用するアクセサリーに合わせて設定してください。

oFF　：本機PTT無効・本機マイク無効（オプションのPTTとマイクのみ有効）
out　：本機PTT有効・本機マイク無効（マイクは外部マイクのみ有効、PTTは両方が有効）
ALL　：本機PTT有効・本機マイク有効（イヤホンだけを使うときの設定）

※ out、ALLでスピーカーマイクを使うとき、本機PTTを押しても送信できません。スピーカーマイクのPTTを押して送信してください。

No.30　緊急警報鳴動時間　10 EmG-t

通常は緊急通報のアラーム鳴動時間と送信時間は10秒に設定されていますが、この時間を10秒単位（最大60秒）で変更できます。

No.31　秘話周波数　34 Scr-Fq

秘話のキャリア周波数を設定します。初期値と異なるキャリア周波数を使うときは、通話したいグループ全員の設定を同じ値に揃えて変更してください。

No.32　秘話エンファシス　on EmPHA

弊社製、他社製に限らず特定小電力トランシーバーの秘話通話は機種によって相性があり、音声が聞き取りづらい場合があります。聞き取りづらいと感じたときに、この設定を切り替えると改善される場合がありますので、お試しください。

No.33　減電池アラーム（アラーム間隔）oFF bAtt-C

電池の電圧が低下するとディスプレイ右上の電池マークが点滅し、減電池をお知らせします。このとき設定時間ごとに1回、電池が減っていることを音や声でもお知らせできます。お知らせ音は設定や電池の種類によって異なります。電池が減っている状態で音や声でお知らせするため、間隔を短く設定するほど早く電池が切れてしまいます。

セットモード No.12 サウンドが「bp」の場合
　→アラームで「ププッ」音が鳴ります

セットモード No.12 サウンドが「GdC」「ALL」で EBP-60 を入れている場合
→「充電してください」と発声します。

セットモード No.12 サウンドが「GdC」「ALL」で乾電池を入れている場合
→「電池を交換してください」と発声します。

No.34　グループトーク・モード（TSQ/DCS）　ton GrouP

本機のグループトーク機能は一般的な番号方式（トーンスケルチ）の他、DCS（デジタルコードスケルチ）に切り替えることができます。グループ種類切り替えを Cd1、Cd2 に設定し、通常のグループトークと同様に 点灯中に[グループ]キーを押すことで DCS 番号を設定できます。グループ番号の変更はトーンスケルチと同様、ダイヤルを 2 回押した後ダイヤルを回してください。Cd1、Cd2 設定によって変更できるグループのコード数と表示が選べます。

Cd1：01～83 の 83 通りのコード番号から選択（待ち受け時「_○○」とコード番号を表示）
Cd2：Cd017～Cd754 の 108 通りのコードから選択
（待ち受け時「_Cd」と表示され、変更時に「Cd_○○○」とコードを表示）

※　中継器リモコン機能でグループトークを DCS にしていても設定は無効になります。

No.35　VOX ディレイ時間 10 vod-t

VOX で送信したとき、音声が途切れても初期値では 1 秒間、送信状態を保持するので息継ぎしても途切れません。この時間を 0.1 秒～3.0 秒に変更できます。送受信の切り替えをテキパキと行いたいときに、設定を短めにすると使い勝手が向上しますが、息継ぎなどですぐ送信が落ちることもあり、十分に動作確認をしてください。

No.36　チャンネル表示　AL CHdiSP

本機のチャンネルは L01～L09、b01～b11 と表示されます。noL に変更すると他社製無線機の 01～20 方式に変更できます。

AL	noL
L01～L09	12～20
b01～b11	01～11
L10～L18（中継）	19～27（中継）
b12～b29（中継）	01～18（中継）

OFF を選ぶとチャンネルを非表示（－－－－－－）にでき、別のユーザーからどのチャンネルで通話しているか見られずに済みます。非表示にしているときはチャンネルとグループ設定の変更はできません。再設定する場合はチャンネル表示を noL または AL にしてください。

No.37　グループトーク判別精度　2 mG-ton

他社製や古い無線機と混用するとき、グループトークを使うと通信障害が出ることが有ります。最新の部品を採用する本機の読み取り精度が非常に正確なために起こる相性問題です。この設定をする前に、グループ番号を１０番～３７番辺りに変更してお試しください。比較的相性問題が出にくい番号です。それで

も上手くいかないときにお試しください。判定精度をわざと甘くして、同じ番号に設定しているのにスケルチが開かない、ノイズでトーンが乱される、などの症状を改善します。１が最も厳しく、５が甘くなります。甘くし過ぎると近い番号のグループ信号でもスケルチが開くことがあり、テールノイズキャンセル機能も働かなくなるので、スケルチが切れるときの「ザ！」ノイズが聞こえます。初期値の 2 は、かなり正確なトーン判定をします。

No.38　マイク AGC 切り替え　SL AGC

マイクに大きな声が入った場合、通話音声が歪むことがあります。この歪みを緩和するのが AGC（自動ゲイン調整）で、大きな声を検知したときにゆっくり緩和させる低速「SL」と瞬時に緩和させる高速「FS」の 2 種類から選べます。他機種と混用する場合、相性問題を解決できることがありますが、下手に設定を変えると逆に音が悪くなります。複数の機種が混在するときは全部の機種で音質を確認してください。

No.39　AGC ターゲットレベル調整　06 AGC-tG

マイク AGC 設定を入れたときに、歪みを緩和させる音量のポイントを調整することができます。
設定する数値を小さくすることで、より大きい声のときの歪みを緩和させます。逆に数値を大きくすると小さい声の歪みを緩和することができますが、相手に自分の声が小さく聞こえます。これも前項同様、受信側の機種との相性も含めて、下手にいじると逆に送信音を悪くすることがあるので必ず実験してからご使用ください。

No.40　個別呼び出し送受信　oFF SELCAL

通話開始時に呼出信号を送り、特定の相手（グループ）を選択して通話ができます。モード 1 でグループトーク機能設定（トーン、DCS）を切った状態で個別呼出設定を ON にしたときに待ち受け時に「SL」が表示されます。PTT を押したときに「ピッピッピッ・・・」の呼び出し音が鳴り、選択した相手を呼び出します。呼び出し音が止まると通話ができます。
待ち受け中にダイヤルを 2 回押しダイヤルを回して呼び出し相手を変更・選択できます。

SEL ALL：全員を呼び出します。
SEL Cod-○○（00～99）：特定の個体番号を呼び出します。
SEL GrP-○○（00～19）：特定の個別グループを呼び出します。

呼び出されたトランシーバーはベル音で着信を知らせ、呼び出しを行ったユーザーの個体番号を表示します。

メモ）個別呼出を使用する前に全ユーザーの個別呼出設定を ON にして、個体番号と個別グループ番号を設定してください。

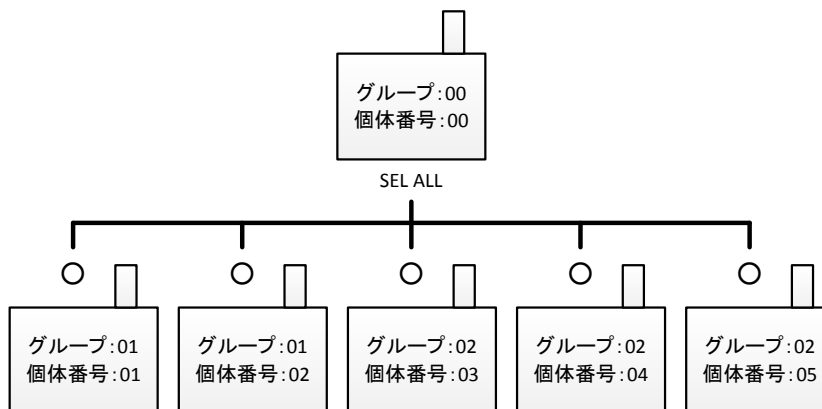
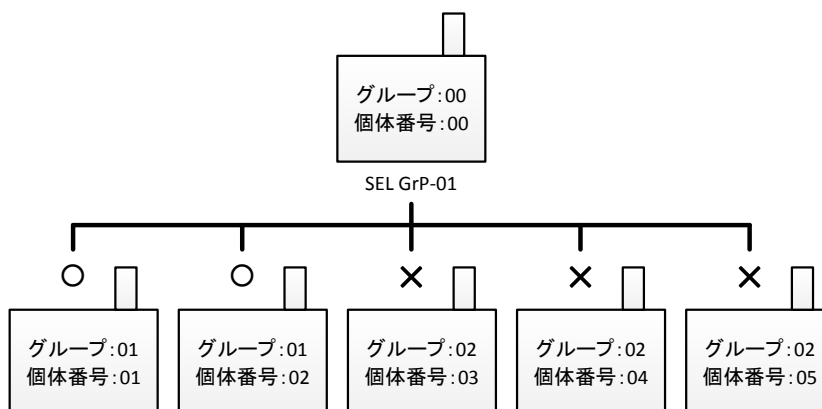
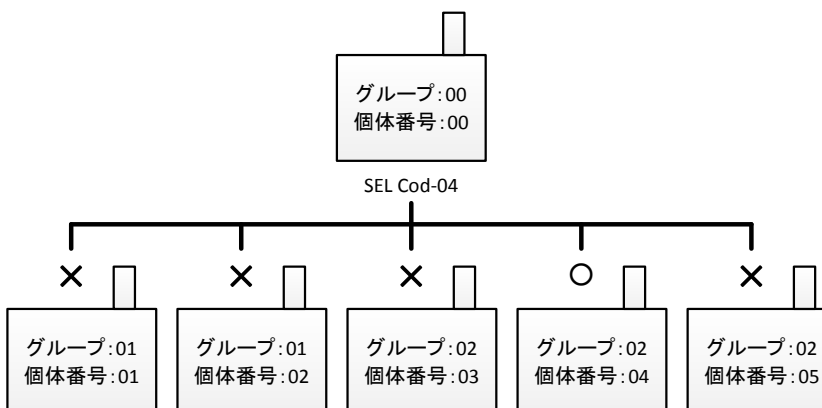
No.41　個別呼び出し用マイグループ割り当て　00 my-GP

個別呼出でのグループ番号を割り当てます。グループ数は「00」～「19」の 20 組です。

No.42　個別呼び出し用マイコード割り当て　00 my-Cd

個別呼出に使う個体番号を割り当てます。「00」～「99」の 100 通りから選べます。
ここで割り当てたマイコードはセットモード No.48 通報音設定での個体番号にも適用されます。

個別呼出通話例：
下の表は、グループが 00（一人だけ），01（二人組），02（三人組）の３つ、ユーザーが 00 から 05 までの 6 台ある環境を表しています。グループ 00、個体番号 00 は、下図では送信者を表します。

①全員を呼び出す　＝　SEL ALL

②グループ 01 の二人だけを呼び出す　＝　SEL GrP-01

③特定の個体（例：個体番号 04）だけを呼び出す　＝　SEL Cod-04

No.43　通話圏内確認　oFF ArEA-C

グループトーク中に相手との通話が可能かどうかの目安を表示することができます。モード 1 でグループトーク機能設定（トーン、DCS）を入れた状態で通話圏内確認設定を ON にしたとき、モード番号の右側に通信状態が表示されます。

「≡ 」点滅：圏内に通話できる相手が居るか、検索しています。
「Ｃ 」点灯：通話可能かどうか確認するための信号を送っています。

「≡ 」点灯：信号は強く良好な通話が可能。
「＝ 」点灯：信号は普通、おおむね良好な通話が可能。
「＿ 」点灯：通話が可能だが信号は弱く、途切れることがある。
「＿ 」点滅：相手が離れているか電源が切られているなどで、通話できない。

メモ）通話したいグループ全員の通話圏内確認を ON にして同じグループ番号にしてください。約 1 分毎に一瞬ですが通話が可能か確認をするので、そのタイミングが別のユーザーのチェック動作と重なると正しく判断できなくなります。これを防ぐため、この機能を使うときは電源を入れるタイミングを全員少しずつずらせてください。また、3 人以上のグループで使用する際は、圏内判定が正確に表示されない場合がありますが、この表示が実際の通話の距離や音質に影響することはありません。

No.44　テールノイズキャンセル　on tAiLnC

本機はグループトーク機能を入れていなくても、通話終了時に受信側から聞こえるテールノイズ（受信状態から待ち受け状態になるときの「ザッ」というノイズ音）を除去するテールノイズキャンセル機能が入っています。テールノイズキャンセル機能は送信側と受信側の両方で有効にしたときのみ動作します。
この機能が入っていないトランシーバーと通話するとき、この設定を変える必要はありませんがテールノイズは聞こえてしまいます。

No.45 周囲温度喚起　oFF tmP

本機は温度を検知するセンサーを内蔵しています。設定温度を超えたとき「周囲温度が高くなっています、ご注意ください」と発声するので、熱中症注意喚起などに応用することができます。温度設定については 30℃～60℃の範囲を 1℃ステップで設定することができます。
※ 精度にはばらつきもあり、あくまで目安としてお使いください。精度保証はできず、誤動作による逸失利益の補償もできません。

No.46 フックキー割り当て　Hoo Hoobtn

本機の［フック(A/B)］キーは初期状態ではフリーチャンネルサーチの切り替えに割り当てていますが、通常の「ミュート（消音)」機能に割り当てられます。デュアルオペレーションモード、2 波受信モードではここで割り当てを変更しても、サブ PTT キーになります。
vLO を選ぶと、［フック(A/B)］キーを押すと受信音声が消音します。［フック(A/B)］キーをもう一度押すか、ダイヤル操作で音量を変更すると解除します。接客モードでは無い、従来からあるミュート機能です。

No.47 レストア　oFF rESto

チャンネル情報、メモリー情報、セットモード情報をリセットしても消えないように記憶させ、復元させる機能です。リセット後の面倒な設定やり直しをせずに済みます。

＊本体を記憶させたい状態に設定したあと、ダイヤルを回して SAv/Lod/dEt を選びます。
SAv: ［グループ］キーを 2 秒押し続けるとチャンネル情報、メモリー情報、セットモード情報が保存され「rSt writE」を表示します。新しい設定を記憶するときは、この操作を繰り返せば上書きできます。

Lod: [グループ]キーを 2 秒押し続けると保存した情報を復元します。復元が終わると「rSt rEAd」が表示され、自動的に再起動します。何も保存されていない場合、「rSt nodAtA」が表示され読み出しがキャンセルされます。

dEt: [グループ]キーを 2 秒押し続けると記憶させた情報を消去します。終わると「rSt ErASE」が表示されます。完全に工場出荷状態まで戻す時は、消去してからオールリセットしてください。

No.48 通報音　EG rPt-Sd

緊急通報の動作と音声を選びます。

oFF　：通報しません。

EG　：通報時にアラーム音が鳴ります。

Sd　：通報時に「異常が発生しました」という音声が 2 回鳴ります。

Cd　：通報時に「〇番、異常が発生しました」という音声が 2 回鳴ります。

（〇＝拡張セットモード No.42 個別呼び出し用マイコードで割り当てた番号）

No.49 減電池スリープ　on bt-SLP

スイッチを切り忘れるなどで過放電させると、バッテリーパックや乾電池の劣化や充電不良の原因になります。これを防ぐため電池の電圧が一定レベルまで低下すると自動的に電源を切ります。それでも待機電流は発生しているので、バッテリーパックは取りだして保管してください。OFF にすると電池を最後まで使い切ることができますが、大きな差は無いので通常は「on」でご使用ください。

No.50 受信音ミュートレベル　4 r-muSn　（接客モード）

接客モードのタッチ、またはボイスを使用時のマイク感度レベルを変更できます。

ボイスの場合、オプションマイクのゲインや装着位置、声の大きさなどの都合でマイクから入る声の量は人によって異なります。タッチも叩き方の癖があるためレベルがかえられるようになっています。

ミュートが利きにくい場合は設定値を大きく、ミュートが利きやすい場合は設定値を小さくして、十分に動作確認をしてからご使用ください。

※特に設定値を大きくしすぎると、誤動作するおそれがあるためご注意ください。

No.51 受信音ミュートディレイタイム　3 r-mudt　（接客モード）

受信音ミュートのミュート保持時間を変更できます。ハンド、タッチ、ボイスの設定によって保持時間の用途が変わるため、同じ設定値でも保持時間の意味は異なります。

	設定値 1	設定値 2	設定値 3	設定値 4	設定値 5
ハンド タッチ	5 秒	10 秒	15 秒	30 秒	60 秒
ボイス	1 秒	2 秒	3 秒	4 秒	5 秒

ハンドとタッチではミュート解除忘れを防ぐための時間設定です。設定時間が過ぎると自動的にミュートが解除されます。ミュート保持時間を延ばしたい場合は、設定時間を長くしてください。

ボイスでは、例えば息継ぎしただけでミュート解除されないようにするための時間設定です。ミュートの切り替えを素早くしたいときは設定を短めにすると使い勝手が向上しますが、すぐにミュートが解除されることもあります。十分に動作確認をしてからご使用ください。

No.52 デュアル・2波受信PTT選択　ALL duALPt

デュアルオペレーションモードと2波受信モードで送信するには、メイン側を送信するときは[PTT]キーを、サブ側を送信するときは[フック(A/B)]キーを押します。(外部マイクではPTTキーを押してメイン側を送信、二度押しでサブ側を送信)この２つのキーをメイン側のみ有効、サブ側のみ有効、両方とも有効、に設定できます。

ALL：メイン側とサブ側の両方を有効
Ptt：メイン側のみ有効　本体[PTT]キー、オプションのPTTキーを押すとメイン側で送信
Hoo：サブ側のみ有効　本体[フック(A/B)]キー、オプションのPTTキーを二度押すとサブ側を送信

メモ）ワイヤレスコールシステムでは、サブチャンネルは通話しないので「Ptt」にしておくことをおすすめします。メインPTTのみが有効になります。

No.53 EJ-57U対応　oFF EJ-57U

EJ-57U（ユニバーサル・コントローラー）の無線機としてお使いになる時は、この設定を「ON」にしてください。ご使用方法についてはEJ-57U 取扱説明書をご参照ください。
※この設定を「ON」にすると自動的にモード1交互通話、グループトーク機能OFFに設定され、モード変更およびグループトーク機能は変更できなくなります。

［拡張セットモードへの切り替え］

１：キーロックを掛けます。（２つあるうちの、どちらの方法でも同じです。）
２：10秒以内に[グループ]キーを５回連続で押します。キー操作が有効であれば「ピピッ」とビープが鳴り、自動的にキーロックが解除されます。
３：セットモードに入ると拡張セットモードメニューが追加されています。
＊ 変更した値を保存して拡張セットモードメニューを隠すには、上記１～３の操作を繰り返します。
＊ チャンネルや通常のセットモードで設定したパラメータも含め、全てを工場出荷状態まで初期化するには、完全リセットを行ってください。

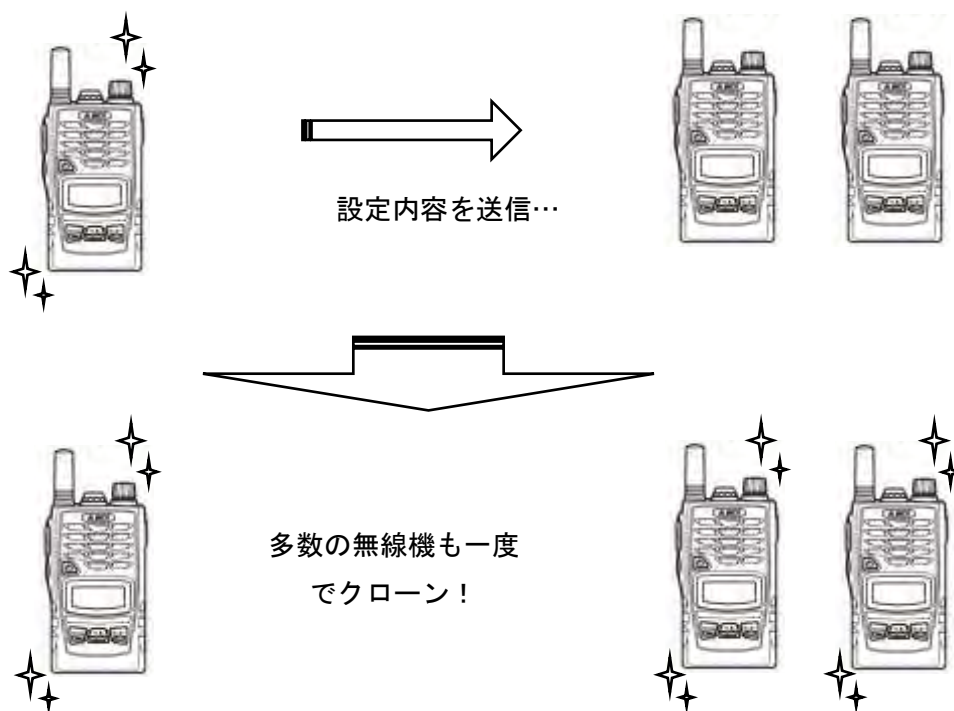
【完全リセット】

電源を切った後[ファンクション]キーとダイヤルを押した状態で電源を入れます。全てのセットモードの内容と登録済みのメモリーがリセットされ、工場出荷状態に戻ります。

<u>レストア機能にメモリーした内容はオールリセットでも消えません。レストアモードで dEt 操作をしてデータを消去しないと完全な出荷状態になりません。（本書　P.12 ～ P.13　レストア機能参照）</u>

4）エアクローンモード

設定済みのDJ-P240（以下、親機）から他のDJ-P240（以下、子機）に、無線で親機のチャンネル情報、メモリー情報、セットモード情報の全ての設定内容を送ることで、任意の台数の子機を一度に同じ設定にする（クローンする）ことができます。複数のDJ-P240を使い始めるときや、混信などでこれらの設定を変更するときにとても便利です。

【概要】

① 親機を準備する

エアクローン用の親機を１台、説明書に従って手動で設定します。

① 親機と子機の状態、通信環境状態を確認する

親機も子機も減電池警告が出ていないことを確認して電源を切ります。親機も子機もなるべく近くに集めて強い電波で受信できるようにします。電波環境が悪いと設定内容が正しくクローンされない恐れがあります。

② 親機と子機をエアクローンモードにする　（親機と子機に共通の操作）

電源を切り、ダイヤルを押し下げたまま電源ボタンを押します。電源が入り、ピッポパとビープが鳴りますが、そのまま両方のキーを押し続けます。ビープ音が鳴ってから５秒ほどして「エアクローンモードです。このトランシーバーを～」から始まる操作方法を発声したら指を放します。「rdy AirCLn」の表示が点滅します。これらの操作を親機とすべての子機で行います。発声はクローンを始めるまで繰り返されます。前にある３つのキーのいずれかを一回押すと止められます。

③ 設定情報を送信する

親機の[PTT]キーを3秒間押し続けると設定情報の送信が始まります。「ピピ」という音が鳴り、

「run AirCLn」の表示が点滅し 送 が点灯します。点滅が始まったら[PTT]キーを放します。
子機は親機からの設定情報を受信すると「ピピ」という音が鳴り、「00」から始まる数字と「AirCLn」の表示が点滅し 受 が点灯します。設定が進むにつれ数字が増え、すべての設定情報の受信を完了（数字「４５」を表示）すると「自動設定が完了しました」と発声して「ooo AirCLn」の表示が点滅し、自動的に子機の電源が切れます。クローンしたい子機がすべて、自動的に電源が切れたことを確認してから親機の電源を切ります。

④ 子機の設定状態を確認する

子機の電源を入れます。正常にクローンされた場合、起動音の後に「クローン設定」に続き親機と同じチャンネルとグループの番号を発声します。子機が正しく送受信できることを確認してください。

※子機受信開始（「ピピ」という音が鳴り、「00」～「45」の受信完了数を表示中）してから自動で電源が切れるまでは、電源を切らないでください。設定内容が正しくクローンされない恐れがあります。誤って切れてしまった場合は、子機の電源を切って完全リセットをしたうえで、初めからやり直してください。

正常にクローンされた場合、自動的に簡易キーロックが設定されます。このため、キーロック設定の内容をクローンすることはできません。また、レストア機能で保存した内容もクローンされません。

・チャンネルスキャン中、フリーチャンネルモード中、メモリーモードチャンネルでの運用中はエアクローンモードで起動することはできません。

・ガイダンス音声は、親機、子機のセットモード No.12 サウンドが「GdC」「ALL」の設定時のみ発声します。親機、子機で「bP」の場合はビープ、アラーム音だけが鳴ります。ガイドとビープの音量レベルはセットモード項目１１で設定します。エアクローン操作中、前面のキーのいずれかを押すと音や声を止められます。

・設定が誤操作などで変わってしまったときは、正しく動いている個体を親機にして、改めてエアクローンしてください。手動で設定を復元するよりはるかに簡単です。

・[ファンクション]キーを 2 秒間押し続けて簡易キーロックを解除すると、通常の手動操作が可能になります。また一度手動で設定を変えると起動時に「クローン設定」と発声しなくなります。

以上

アルインコ（株）電子事業部